

＜リハビリテーションマネジメント＞
アセスメント上の留意点

別紙3

＜実施計画書1＞

分類	リハビリテーション実施計画書項目	留意点
健康状態	健康状態 (原因疾患、発症・受傷日等)	特に生活機能低下の原因となった傷病を特定してください
		疾病管理の方針(投薬内容を含む)を把握してください
		症状のコントロール状態について把握してください
	合併疾患・コントロール状態	リスク管理上留意すべき合併疾患はありますか
		生活機能に影響する合併疾患はありますか
		治療や使用薬剤が生活機能に及ぼす影響(副作用等)について把握してください
		低栄養あるいは肥満や栄養の偏りの有無について把握してください
		合併疾患等についての本人・家族の理解を把握してください
	生活不活発病(廃用症候群)	生活不活発病の発生原因を特定してください
		現在の生活の活発さの程度を把握してください
		生活不活発病改善への方針を把握してください
		生活不活発病及びその原因についての本人・家族の理解を把握してください
心身機能	運動機能障害	麻痺(中枢性、末梢性)、筋力低下、不随意運動の有無について把握してください
	感覚機能障害	聴覚機能、視覚機能等の障害の程度を把握してください
	高次脳機能障害	失行・失認、失語の有無を把握してください
		記憶と認知の障害の有無を把握してください
		高次脳機能障害の日常生活・社会活動への影響を把握してください
	拘縮	部位と運動制限の程度を把握してください
	関節痛	部位と程度を把握してください
		痛みのコントロールの程度も把握してください
	その他	情動症状、うつ状態、循環・呼吸・消化機能障害、音声・発話機能の障害、排尿機能の障害・性機能の障害、褥瘡の有無を確認してください
		これらの障害が日常生活・社会活動制限の原因になっていないか確認してください
認知症に関する評価	中核症状の重症度を把握してください	
	周辺症状の有無を把握してください	
	経過を必ず確認してください(診断時期、受けてきた治療を含む)	
	トイレへの移動	個室内の移動、ドアの開閉が可能かどうか確認してください
	階段昇降	階段の傾斜や手すりの使用状況等にも注目してアセスメントしてください
	屋内移動	自宅と自宅以外の屋内(通所施設内、病院内、等)の違いにも注目して移動能力をアセスメントしてください

日常生活・社会活動	屋外移動	場所や床面の状況による違いにも注目してアセスメントしてください
	食事	食品の形態によって食事動作に差が出るか、箸やフォークの使用状況、瓶や缶あけが可能であるかについて把握してください
	排泄(昼)(夜)	トイレの様式による違いや立ち上がり動作や衣服の着脱についても注目してアセスメントしてください
	整容	洗面、整髪、歯、ひげ、つめの手入れができるかどうかを把握してください。それらを行う姿勢が座位か、立位姿勢かについても留意してください
	更衣	衣服と履物の種類に着目して、着脱の実行状況を把握してください
		適切な衣服の選択かについても把握してください
	入浴	浴室での移動、浴槽への出入りが可能かどうか、体を洗えるかどうかについて把握してください
	コミュニケーション	周囲の人と意思の疎通が可能であるかどうか、困難である場合、とくに表出が困難か、理解が困難かについて把握してください コミュニケーションの相手やその手段(手話、非手話)にも注目して把握してください
	家事	ゴミ捨て、植物の水やり等についても把握してください
外出	公共交通機関の利用、自動車の運転、自転車の運転が可能であるかどうか、把握してください	
起居動作	寝返り 起き上り 座位 立ち上り 立位 それぞれの動作の実施環境による違いを把握してください	
摂食・嚥下	口腔機能の状態を把握し、口腔衛生、摂食・嚥下機能に関する実地指導の必要性を判断してください	

<実施計画書2>

リハビリテーション 実施計画書項目	留意点
ご本人 の希望	希望する背景や理由、その心理状況を把握してください 再アセスメントの際は前回との違いを明らかにしてください
ご家族 の希望	利用者にどうなってほしいと家族が思っているのかを把握してください その希望の根拠や心理状況を把握してください 再アセスメントの際は前回との違いを明らかにしてください

リハビリテーション・アセスメント・チェック表

<実施計画書1>:現状及び個々のレベルについての目標 個々の項目について現状及び目標

分類	項目(リハビリテーション実施計画書項目)	留意点	
健康状態	健康状態(原因疾患、発症・受傷日等)	特に生活機能低下の原因となった傷病を特定してください	
		疾病管理の方針(投薬内容を含む)を把握してください	
		症状のコントロール状態について把握してください	
	合併疾患・コントロール状態	リスク管理上留意すべき合併疾患はありますか	
		生活機能に影響する合併疾患はありますか	
		治療や使用薬剤が生活機能に及ぼす影響(副作用等)について把握してください	
		低栄養あるいは肥満や栄養の偏りの有無について把握してください	
		合併疾患等についての本人・家族の理解	
	生活不活発病(廃用症候群)	生活不活発病の発生原因を特定してください	
		現在の生活の活発さと現在の廃用症候の程度の関連を把握してください	
		生活不活発病改善への方針を把握してください	
		生活不活発病についての本人・家族の理解を把握してください	
参加	社会参加	コミュニティへの関与(町内会活動等)、ボランティア活動等の社会活動への参加状況を把握してください。	
	退院後利用資源	地域住民の自発的な活動を含む活用資源についても把握してください	
心身機能	項目	運動機能	麻痺(中枢性、末梢性)、筋力低下、不随意運動の有無について把握してください
		感覚機能	聴覚機能、視覚機能、感覚機能の障害の程度を把握してください
		高次脳機能	失行・失認、失語の有無を把握してください。
			記憶と認知の障害の有無を把握してください
		拘縮	部位と運動制限の程度を把握してください
		関節痛	部位と程度を把握してください、 痛みのコントロールの程度も把握してください。
		その他	情動症状、うつ状態、循環・呼吸・消化機能障害、音声・発話機能の障害、排尿機能の障害・性機能の障害、褥瘡の有無を確認してください。これらの障害が日常生活・社会活動制限の原因になっていないか確認してください
		認知症に関する評価	中核症状の重症度を把握してください。周辺症状の有無を把握してください。経過を必ず確認してください(診断時期、受けてきた治療含む)

日常生活・社会活動	項目	トイレへの移動	自宅トイレ以外のトイレ、個室内の移動、ドアの開閉が可能かどうか確認してください
		階段昇降	階段の傾斜や手すりの資料状況等にも注目してアセスメントして下さい。
		屋内移動	自宅内と自宅外の屋内(通所施設内、病院内、等)の違いにも注目して移動能力をアセスメントしてください
		屋外移動(含:家の出入り)	場所や床面の状況による違いにも注目してアセスメントしてください
		食事	食品の形態によって食事動作に差が出るか、箸やフォークの使用状況、瓶や缶あけが可能であるかについて把握してください
		排泄(昼)(夜)	トイレの様式による違いや立ち上がり動作や衣服の着脱についても注目してアセスメントしてください
		整容	洗面、整髪、歯、ひげ、つめの手入れができるかどうかを把握してください。そのさいには行う姿勢が座位か、立位姿勢かについてもアセスメントしてください
		更衣(含:靴・装具の着脱)	衣服と履物の種類に着目して、着脱の実行状況を把握してください。適切な衣服の選択かについても把握してください。
		入浴	浴室での移動、浴槽への出入り、体を洗えるかどうかについて可能かどうか把握してください
		コミュニケーション	周囲の人と意思の疎通が可能であるかどうか、困難である場合、とくに表出が困難か、理解が困難かについて把握してください
		家事	調理・掃除・洗濯・ゴミ捨て、植物の水やりについても把握してください
		外出	交通機関利用、自動車運転、自転車利用が可能であるかどうか、把握してください
		起居動作(寝返り,起き上り,座位,立ち上り,立位)	それぞれの動作の実施環境による違いとその理由についても把握してください
		摂食・嚥下	口腔内の状態を把握し、口腔ケア・嚥下訓練の必要性を判断してください

<実施計画書2>:チーム全体としての目標と具体的な進め方

分類	項目(リハビリテーション実施計画書項目)	留意点
希望		希望の根拠や心理状況を分析。本人の希望と家族の希望との差をつかむ。「希望(デマンド)の奥の真のニーズ」こんな風には書くと、深読みしてしまって、利用者が言っていることを信用しなくなる人も出てくるようにも思うし、かといってご用聞きリハまねになっても困るし、難しいですね。ただこの表現は、あまりよくないと思う。本人と家族のニーズに差があるのは当然なので、本人主体で考えるなら、本人の希望を家族がどうとらえているか、ということの方が大切なのではないかと思います。
	ご本人の希望	希望の根拠や心理状況を把握してください 再アセスメントの際は前回との違いを明らかにしてください。
		リハビリテーションを行うことについての本人の理解 を確認してください
		予後説明後の希望について、現実と折り合えるように変化したかどうか確認してください
ご家族の希望	「利用者にどうなってほしいと家族が思っているのかを把握してください。その希望の根拠や心理状況を把握してください 再アセスメントの際は前回との違いを明らかにしてください。	

※()はリハビリテーション実施計画書には記載欄がないが重要な項目